

氏名	服 部 昌 利		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	甲 第 2 8 5 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和43年 9 月30日		
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科内科系皮膚科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学 位 論 文 題 目	アミノ酸分析像よりみた表皮角化の研究		
論 文 審 査 委 員	教授 谷 奥 喜 平	教授 水 原 舜 爾	教授 新 島 端 夫

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

人角質 (callus, gypsum scale, psoriasis scale, erythroderma scale) および人表皮のそれぞれについてアミノ酸分析を試み表皮角化機転の解明に関する新らしい知見を得た。試料は生理的食塩水で処理し、遊離アミノ酸、生食可溶性蛋白、生食不溶性蛋白の3画分を抽出分離し、アミノ酸自動分析装置により分析した。(1)、正常角化課程ないしはそれに近似する過程の所産と考えられる callus および gypsum scale と病的角化課程の所産とみられる psoriasis scale および erythroderma scale との間には遊離アミノ酸および生食可溶性蛋白成分の両者においてアミノ酸分析所見上明確な差異が認められた。(2)、遊離アミノ酸画分では、病的角質において serine, glycine, histidine の寡量が認められた。(3)、生食可溶性蛋白画分にてても又病的角質において serine, glycine, histidine の寡量を認めた。(4)、一方これに対し生食不溶性蛋白画分のアミノ酸分析所見では両者の間に有意の差を認めない。以上の所見よりみて遊離アミノ酸および生食可溶性蛋白画分すなわち可溶性成分における両者間の質的、量的差異を明らかに指摘することができ、この差異はおそらく病的角化課程における表皮上層での蛋白代謝の異常を反映するものであろう。

(昭和44年2月 日本皮膚科学会誌第79巻2号に掲載予定)

## 論文審査の結果の要旨

本研究は種々のヒト角質につきその構成アミノ酸の分析を綿密に試み正常角質と病的角質の間に明瞭な相違を見出したもので、今日尚その機序不詳の角化現象につきこれを解明して行く有力な手懸りを与えたものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。